

きなくさい世の中になってきました。憲法の改正論議がされていたかと思ったら、まさに密室で解釈改憲がなされ、巷では徴兵制の議論さえされています。軍事国家へのあゆみは足早です。北朝鮮の体制を憂えてきた私たちは、自分たちの住んでいる民主的だと信じてきた日本という国が実は北朝鮮と似たり寄ったりであったとやっと気づかされました。戦後の69年間、戦争に巻き込まれなかったのは憲法9条があったからこそだと思えます。正しく不戦の誓いを守るべきではないでしょうか。戦争は憎しみの連鎖です。第2次世界大戦の教訓を忘れてはなりません。膨大な屍と悲しみの中で私たちの心に根付くものは憎悪と復讐です。それは相手国にとっても同じこと。その負の連鎖の中で私たちは生きていくことになるのです。扇動者は格好のいいことを述べ立てます。私たちは今こそはっきりと、戦争は「NO」と声を張り上げる時だと思えます。



### 【最近目立つ病気】

手足口病やヘルパンギーナが乳幼児で流行していますが、例年ほどの勢いはありません。アデノウイルス感染症も昨年末からずっと流行していましたが夏場になってみられなくなってきました。

ウイルス性胃腸炎がずっと続いています。ノロウイルスやロタウイルスではない、夏に流行するエンテロウイルス属のウイルスと思われま

す。おたふくかぜは、それほどの流行になっていません。水痘は散見されます。溶連菌感染症は下火になってきました。ということで、全体的にはおちついて

います。RSウイルスに似た症状のヒトメタニューモウイルスが5月から7月にかけて乳幼児に小流行がみられました。このウイルスは2001年に発見された新しいウイルスです。以下に詳しく述べま

### 【ヒトメタニューモウイルス感染症】

小児の呼吸器感染症の5～10%を占めると考えられています。乳幼児のhMPV感染症はRSウイルス感染症とよく似ています。重症の下気道感染症を惹き起こすことがあります。再感染を繰り返し、低出生体重児や免疫系が不十分な患者さんでは重症化しやすく、要注意です。脳炎や脳症を起こす可能性があるとも言われています。母親からの移行抗体が消失する生後6ヶ月くらいから感染が始まり、2歳までに50%、10歳までにほぼ全員が感染すると言われて

います。診断はインフルエンザやRSウイルスの迅速診断法と同様に、鼻汁を鼻咽頭から綿棒でこすって行います。5～15分で結果が出ます。日本では3月から6月に流行のピークを迎えます。

潜伏期は4～6日、症状は鼻汁・咳嗽・喘鳴(喘息のような呼吸音)・4～5日間の発熱です。1週間程度で症状はよくなりますが、細菌の2次感染があった場合や、肺炎を併発した場合はもっと長引きます。hMPV感染症は1～2歳が最も多く、RSウ

イルスより初感染は遅い傾向です。

hMPV感染症に効果のあるワクチンはなく、症状を抑える対症療法が主になります。肺炎を合併した場合は、入院して点滴、抗生剤投与や酸素投与を要することもあります。

hMPVは飛沫感染と接触感染によってうつるため、保育園では流行が起りやすく、咳や鼻汁のある人は手洗い、マスクの着用などを励行しましょう。

### 【エボラ出血熱】

エボラ出血熱は、近年では国際的にはエボラウイルス病(Ebola virus disease: EVD)と呼ばれています。EVDの最も一般的な症状は、突然の発熱、強い脱力感、筋肉痛、頭痛、喉の痛みなどに始まり、その後、嘔吐、下痢、発疹、肝機能および腎機能の異常、さらに症状が悪化すると出血傾向が出ます。検査所見としては白血球数や血小板数の減少、および肝機能異常が認められます。潜伏期間は2日から最長3週間といわれており、汚染注射器を介した感染では短く、接触感染では長くなると言われて

います。死亡率は60～90%にもなり、まさに殺人的なウイルスです。EVDの元々の宿主はコウモリ的一种ではないかと考えられています。感染した人または動物の血液などの体液と直接接触した場合に感染します。これまでもアフリカ地域の風土病として散発的な流行の繰り返しがみられました。今回2014年に西アフリカ諸国で起こっているEVDの流行は、死者が1000人を超え流行拡大が続いています。関係諸国は次々に非常事態を宣言し、2014年8月8日には世界保健機関(WHO)が「国際的な公衆衛生上の緊急事態である」と宣言しました。この流行は2014年3月にギニアで集団発生が報告されたのがはじまりです。その後、隣国のリベリア、シエラレオネ、さらにナイジェリアへと拡大しています。WHOの報告によると、2014年8月4日現在、ギニアで臨床的にEVD患者とされた累計症例数は495例(う

ち死亡363例)、リベリアでは516例(同282例)、シエラレオネでは691例(同286例)でした。7月には、リベリア人の40歳男性が空路でナイジェリアへの渡航中に発症、ナイジェリアの病院でEVDと診断され、数日後に死亡しました。その後、ナイジェリアでは疑いのある症例まで含め、8月4日現在で計9例が報告されています。WHOは8月11日時点で死者は1069人、感染者は計1975人と発表しました。有効なワクチン・治療薬の開発が急務ですが緊急事態宣言を受けて8月12日にWHOは開発段階の治療薬やワクチンを使用することの是非について、使用は倫理的であるとの認識で一致しました。

### 【ワクチン最新事情】

水痘(水ぼうそう)ワクチンは、今年の10月1日以降、定期接種となる予定です。1歳以上3歳未満で3か月以上の間隔で2回接種されます。今年度に限り3歳以上5歳未満の者は経過措置として1回の接種が受けられる予定です。



☆大手町の夜間急病診療所(Tel.222-0099)では午後7時から11時まで、小児科と内科の診療を年中無休で行っています。加畑の担当は8/24、9/28、10/23、11/16の予定です。

☆11月8日(土)は全国学校保健・学校医大会に出席のため休診です。

☆金沢市では今年度も幼児期の任意接種のワクチン(水痘・おたふくかぜ・インフルエンザ)についての助成制度を行っています。詳細は受付でお尋ね下さい。

☆すこやか検診を実施しています。10月末までですが早めに受診しましょう。

☆世界の宝「憲法9条」を次の世代に贈りましょう。

